



安渡産

大槌復興米

去年10月中旬、菊池妙さんは基礎だけになった安渡の実家の玄関の前で3株の稲を見つけました。そのとき、菊池さんは言葉にならない感動で涙を流したそうです。その稲を刈り取り、安渡産大槌復興米と命名しました。

その後、ボランティアに訪れた遠野まごころネットをはじめたくさんの人が、塩害と栄養不足のハンデを持つ稲を増やすために集まりました。発芽に使える稲穂は2本。メンバーはたくさんの愛情を注ぎ、150本の苗を作る事に成功しました。

その苗の田植えが、今年5月26日(土)に、障害者支援施設「四季の郷」の近くにあるひよこりひょうたん島の形をした、小さな田んぼで行われました。過酷な環

境の中でたくさんの支えがあった田植えを迎える事が出来た安渡産大槌復興米。その青々と成長を続ける姿は、絆と復興のシンボルになりそうです。



編集後記

▼最近、先輩にかわって取材に行く事が多くなってきました。カメラをもって自転車で走っている24歳くらいの男がいたら、それは多分私です。先月は、ボランティアの人が企画する行事や中総体など盛りだくさんで、取材に行った先々でたくさんの表情を写真に収める事が出来ました。しかし、まだまだ拙い文書と写真です。皆さんが読んで楽しくなるような広報を作れるようがんばっていきま(花石) ▼最近、後輩にかわってもらい、部屋の中にあることが多くなってきました。昨年度はほぼ全ての取材に一人で出向き、たくさんの方々と顔を合わせていました。それを考えると寂しい気がします。しかし、まだまだ広報担当として見なければいけないもの、伝えたいことはたくさんあります。季節が変わり、また大槌の町が、大槌の人が、違う顔を見せ始めました。後輩に負けずに走り回りたいと思いますので、よろしくお願いします。(佑樹)